

学籍番号：4318100530

氏名：和田 智里

実習先：口之島

実習期間：令和5年 7月28日 ~ 7月29日

1. 自然環境

立地：鹿児島市からは204kmに位置し、トカラ列島の最北端。

鹿児島港を出航した村営船「フェリーとしま」が最初に到着する十島村の玄関口であり、今も水蒸気を吐き出す燃岳に象徴される火山島である。

気候：温帯と亜熱帯を融合したような気候で、温暖多雨であり、平均気温は年間を通して20℃。

自然：タモトユリ、トカラヤギ、野生牛などが見られる。



2. 社会的背景

【人口】103人

【世帯数】72世帯

【高齢化率】39%

中学校卒業後は高等学校以上の教育機関が存在しない十島村を離れ、本土へ就職や高等学校以上の教育機関への進学による人口流出により過疎化に拍車がかかっている

【産業】農林水産業が主であり、建設業や宿泊業などが挙げられる。

	2020		2015	
	件数	割合	件数	割合
A 農業、林業	11	19.6%	20	26.7%
B 漁業	1	1.8%	5	6.7%
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%	0	0.0%
D 建設業	5	8.9%	13	17.3%
E 製造業	0	0.0%	0	0.0%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	3	5.4%	3	4.0%
G 情報通信業	0	0.0%	0	0.0%
H 運輸業、郵便業	0	0.0%	0	0.0%
I 卸売業、小売業	1	1.8%	2	2.7%
J 金融業、保険業	0	0.0%	0	0.0%
K 不動産業、物品賃貸業	0	0.0%	0	0.0%
L 学術研究、専門・技術サービス業	0	0.0%	0	0.0%
M 宿泊業、飲食サービス業	8	14.3%	7	9.3%
N 生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%	0	0.0%
O 教育、学習支援業	9	16.1%	8	10.7%
P 医療、福祉	8	14.3%	4	5.3%
Q 複合サービス事業	3	5.4%	3	4.0%
R サービス業(他に分類されないもの)	1	1.8%	1	1.3%
S 公務(他に分類されるものを除く)	5	8.9%	9	12.0%
T 分類不能の産業	1	1.8%	0	0.0%
	56	100.0%	75	100.0%

【歴史】第二次世界大戦の後、昭和27年(1952年)まで口之島の北にかかる北緯30度以南は、アメリカの占領下にあり、占領下の間、本土と奄美や沖縄の島々との密貿易の島として栄えた。1972年にトカラ列島が本土復帰したのに伴い、十島村が発足した。

3. 住民の生活

【風習】伝統芸能として盆踊りがあり、その中に組み込まれている狂言が特徴的である。

また、旧暦の11月に行われる霜月祭りは神様にお酒やサトイモを供え、各お宮を回り、健康安全や豊作をお祈りする。

【生活環境】島内には売店は一店舗のみで営業時間も短く、物価もやや高めである。

フェリーが週に2便来るが、島民にとって生命線である。

ガソリンスタンドも島で一店舗のみ。

坂道が多い印象を受け、車がないと移動は厳しい。

インターネット回線はあるが場所によっては繋がらないことも多い。

【教育】小中学校として十島村口之島小中学校が設置されている。高等学校以上の教育機関は存在しないため、教育を受けるためには十島村を離れる必要がある。

【名所】・平瀬海水浴場

自然海岸を利用した海水浴場で潮の干満によつては魚と泳ぐこともできる。

現在はダイビングをしにやってくる人も多く、宿泊施設はその客で賑わっていた。



・セラナマ温泉

口之島の南端に位置する温泉保養施設

・フリイ岳展望台

晴れた日には屋久島などを一望できる。

4. 医療供給体制

口之島診療所があり、常勤看護師が1名している。

常勤医師や歯科医師はおらず、鹿児島本土からの巡回診療が月に2回ある。

緊急時にはドクターヘリ、鹿児島県防災ヘリ、海上自衛隊の救難ヘリが要請される。

実習概要

日付	内容
7/28	23時 フェリーとしまに乗船 鹿児島港を出発

7/29	5時 口之島港到着 8時～ 診療準備開始 9時～15時 診療（義歯調整、根管治療、3歳児歯科検診など） 15時～ 片付け 19時 フェリー乗船
7/30	2時 鹿児島港到着

振り返り記録

診療について

島には歯科治療を受けることができる環境がなく、このような定期的な巡回診療はとても大切だと感じました。材料がどこにあるか把握しきれていなかったのを探しながらの診療となりとても大変で、日頃どれだけ恵まれた環境で実習を行っていたのかと気付かされました。またポータブルの器具や限られた環境の中で最大限の治療を行うことはとても難しく日頃から視野を大きく持ちながら診療していく必要があると強く感じました。

今回は義歯調整が多かったのですが、午前の診療で来た患者さんがお昼ご飯後にわざわざ「痛みがなくご飯が食べることができました。ありがとう。」と言いに来てくださった方がおり、とても暖かい気持ちになりました。日頃からケアできない患者さんだからこそ短時間で的確な治療を行うことが患者さんの満足に繋がるのだと感じました。

口腔内の状態も個人差が多く、高齢化が進んでいる口之島では誤嚥性肺炎などを防ぐためにも口腔状態の改善はますます必要になってくると思います。セルフケアでできることは我々歯科医師が巡回診療で出向いた時に指導し、少しでもQOLの向上に努めていく必要があると感じました。

また器具の片付けは、今回は折り返し便で鹿児島島へ帰ることに急遽決まったため、一次洗浄だけで持ち帰りましたが、このように環境が整っていない中での清潔、不潔の線引きも難しかったです。

他の大学ではあまり経験できない鹿児島大学ならではの離島実習だからと思い参加しましたが、診療風景や島の医療体制は想像していたものよりも遥かに困難で、とても良い勉強になりました。

今回は台風接近のため、滞在時間が短くとても残念でしたが、限られた時間で島のゆったりとした雰囲気や堪能でき良い機会になりました。またこのような機会があれば他の島も参加したいです。

